

こんにちは♪ もうすぐクリスマスだね。クリスマスといえばツリーですが、どうしてツリーがあんなにキレイなのか皆さんは知っているでしょうか？ それはこの世界でもっとも美しいものが3つ、ツリーに込められているからなのだと思います。1つめに地上に咲く花、2つめに天上に輝く星、そして3つめには心にともる愛。これらすべてがそろっているのですから、キレイなわけですよね。クリスマツツリーは、この世には美しいものがあるのだということを思い出させてくれます。

さて、今号では本の雑誌「ダ・ヴィンチ」で紹介された今年のベスト本を紹介します！ 「BOOK OF THE YEAR 2025」の小説部門で1位に選ばれた『PRIZE』と、毎月の「今月の絶対にはずさない！プラチナ本」の頂点に立った『小説』、そして文庫部門で1位になった『成瀬は天下を取りにいく』です。

「ダ・ヴィンチ」ベスト本！

『PRIZE -プライズ-』 村山由佳 文藝春秋

「直木賞が欲しい。他のどの賞でもなく、直木が」。

今年の上半期の芥川賞・直木賞は、両者ともに受賞作無しでした。ノミネートされていた作家たちはどれほど悔しい思いをしたことでしょう。

天羽カインは直木賞が欲しかった。何としてでも直木賞が。彼女は、ライトノベル作家の登竜門である＜サザンクロス新人賞＞において、史上初の最優秀賞と読者賞をダブル受賞してデビュー。3年後には初の一般小説を上梓し、同作品でなんと「本屋大賞」を受賞してしまう。以来絶え間なくベストセラーを生み出し続け、ドラマ化・映画化作品も多数。いまもっとも人気のある作家の一人である。ところが、読者からはこんなに支持をされているのに、プロの作家が選考委員を務める名のある文学賞が、もう一歩というところで獲れない。「出せば売れる、というだけではもう足りないのだった。身体じゅうの全細胞が、正當に評価される栄誉に飢えて餓えている。世間や書店のお墨付きは得た。あとは文壇から、同業者から、作家としての実力を認められたい。いや、認めさせたい」。彼女は権威ある誰から、わかりやすい形で認められたいのだった。彼女ほどの人が、そうされないと、自分に自信が持てなかつたのだ。彼女にとって、直木賞は絶対だった。どうしても直木賞だった…。

『小説』 野崎まど 鳴波社

本屋大賞第3位！「本を読んでいるだけではダメなの？」という問い合わせに答えてくれる本！5歳のときに『走れメロス』を読んで小説に目覚めた内海修司は、貪るように本を読むようになった。一家が引っ越ししたことは、彼の読書生活をより加速させ、友だちなどひとりもできなかった。ところが小6になって、生涯の友・外崎と図書館で出会う。司馬遼太郎の『龍馬がゆく』の3巻を読んでいたところ、「面白いの」と尋ねるので、1巻を貸してみたところ、すっかりハマってしまったのだった。実はそれまで外崎は本を読んだことがなかったのだった。小説の面白さを共有できるようになった二人は、学校の敷地のすぐとなりの鬱蒼と庭木の茂る古びた大きな屋敷、通称モジヤ屋敷に小説家が住んでいることを知り、そこに忍びこもうと試みる。そこには学校の図書室に負けないくらいたくさんの中古本があり、作家先生は「自由に読んでくれていい。勝手に入ってくれてかまわない」と夢のような提案をするのだった。二人はそこで毎日、本を読んで過ごすことに。ところが、やがて、「読んでだけいたい」内海と「書きたい」外崎は道を違えることになる…。

『成瀬は天下を取りにいく』 宮島未奈 新潮社

デビュー作ながら、本屋大賞を初めとして無数のランキングを総ナメしたこの作品が、文庫化され、こちらも文庫部門で第1位に選ばれました！

「わたしはこの夏を西武に捧げようと思う」。

中2の1学期の最終日、また成瀬がおかしなことを言い出した。いつだって成瀬はすごくて変だ。幼稚園のころからほかの園児とは一線を画していて何でもできたし、小学校の卒業文集に書いた将来の夢は「二百歳まで生きる」だった。「わたしはシャボン玉を極めようと思うんだ」と言うや、夕方のローカル番組「ぐるりんワイド」に出演するところまで行ってしまう。西武に捧げるとは、毎日西武に通うということだ。地元民からこよなく愛されてきた大津市唯一のデパート、西武大津店が八月いっぱいでクローズしてしまう。「ぐるりんワイド」で生中継をするから、毎日通ってテレビに映りこむのだという…。

「わたしはお笑いの頂点を目指そうと思う」。「かつてなく最高」の主人公、成瀬のキャラがいいのはもちろん、M-1を目指してコンビを組まされてしまう、幼なじみの島崎との距離感がいいです！

いよいよ大人気シリーズ堂々完結の第3巻『成瀬は都を駆け抜ける』も刊行されました！

『暁星』 濑 かなえ 双葉社

「29作目にして、この作品が一番好きだと断言できるので、『暁星』と一緒に様々なことを乗り越えていきたいです」（著者）。

安倍元総理襲撃事件をモチーフにした作品！

現役の文部科学大臣で文壇の大御所作家でもある清水義之が全国高校生総合文化祭の式典の最中、舞台袖から飛び出してきた男に刺されて死亡する事件が起きた。逮捕された男の名前は永瀬 暁。37歳。永瀬は逮捕されたのち、週刊誌に手記『暁闇』を発表しはじめる。ノンフィクション。事件の真相が暴かれていく。彼の父親は、日本最高峰と呼ばれる文学賞、桜柳賞に、6年連続でノミネートされた実力派作家・永瀬暁良だった。しかし、暁が6歳のときに自殺してしまう。清水は桜柳賞の審査員で、暁良の作品を完全否定し、選評で痛罵を浴びせていた。一方、暁は宗教二世でもあった。弟の輝に生まれながらの重度の先天性心疾患があったので、母親が新興宗教団体＜愛光協会＞に多大な献金をしていたのだ。清水は教団とも深い結びつきがあった。手記にははっきりと彼に対する恨みが綴られていた。

「俺はただ星を守りたかっただけ」。「夜明け前が一番暗い。だが必ず日は昇る。そこには輝く星がある」。

暁の手記の後に、事件の現場にたまたま居合わせた女性作家の小説が掲載されています。宗教二世のふたりの愛の物語です。

『あたしがわたしじゃなくなれば』 汐見夏衛 一迅社

「いいね、あんたは。綺麗で、愛されて、幸せそうで、いいね。あたしも、あんたみたいになりたいな」「いいなあ。いいなあ。なんて軽やかなんだろう。なんて自由なんだろう。わたしも、あなたみたいになりたい」。美しくなければ、幸せになれない。ルッキズムに毒された14歳の陽羽里は、醜い自分なんか消えたほうがいいと思い、ある朝、初めての無断欠席をし、目立たぬ場所を探して、病院の屋上に辿り着いた。そこには家族と楽しそうに談話する車椅子の美しい少女・恵美羽がいた。やっぱりなあ。綺麗な子はみんなから愛されるんだ。あの子みたいになりたい。嫉妬と羨望が激しく燃え上がる。思わず、靴を脱ぎ、靴下も脱ぎ捨て、フェンスをぐいぐいと登った。すると、恵美羽は「あなた、死にたいの？」と尋ねてきた。そして、「いらないのなら、その命、わたしにちょうだい」とつかみかかってきた。目覚めると、二人の体は入れ替わっていた。実は恵美羽も健康的な陽羽里を羨んでいたのだ。恵美羽は稀少な「不治の病」だった。「美しさ」と「健康」。互いにずっと求めていたものを手に入れることができた二人は満足するのだが…。

『I』 道尾秀介 集英社

6つの章で構成され、読む順番は自由。720通りもの読み方ができ、読者それぞれの物語を読むことができた『N』を超える未知の読書体験！

「本作は二つの章から成る物語です。読む順番は自由ですが、その選択により、結末は大きく変わります。どちらかの順番で読むと、二人の主人公を含め、多くの人が命を失います。別の順番で読むと、彼ら(彼女たち)は生き残ります。殺すか、救うか。あなたの選択が、人の生死を決定します。後戻りはできません」(著者)。あなたの選択で結末が変わるというのです。

2章につけられたタイトルは両方とも「雨の匂い」を表していて、「ペトリコール」が「雨の降り始め」の匂い、「ゲオスミン」が「雨上がり」の匂い^{ガラス}なのです。

「ペトリコール」では、硝子職人の元で働く、戸籍のない高校生のカップルのお話が、「ゲオスミン」では、愛するものを失った休職中の医者と刑事を辞めてホームレスになった男のお話が語られます。

さあ、あなたはどちらから読み始めますか？

☆『ビジュアルで あつめて ならべて 整理する 世界博物大図鑑： チーズケーキからアンドロメダ銀河まで』 DK社 東京書籍

美しいビジュアル図鑑を作らせたら右に出るものいないDK社の、これぞ真骨頂！この図鑑には世界のすべてが収録されています。「『知りたい』を全部かなえる」やら「一生モノの図鑑」というような本の帯の惹句も偽りなし！サブタイトルに「チーズケーキからアンドロメダ銀河まで」とありますが、確かに「銀河の種類」から始まって、「世界のケーキ」で終わっています。あなたは今までに打ち上げられた宇宙ロケットのかたちを思い浮かべられるでしょうか？古代エジプトの神々を何体知っているでしょうか？飛べない鳥を何種類知っていますか？絶滅してしまったロドリゲスクラセリクガメをご存知でしょうか？ヨガのポーズがこんなにあるなんて知っていたでしょうか？ああ、世界って、こんなにさまざまで面白い。

◎「冬休み貸出」やってます！ 冬休みの間じゅう、好きなだけ本が借りられます！ まとめ借り、大歓迎！

——クリぼっちも、受験でクリスマスどころでないキミも、聖夜には、あたたかい気持ちになれるといいな。Happy Xmas！ハレルヤ！では、図書館で。よいお年を。